

## お礼のことば

吾妻の山頂付近は白く雪化粧し、構内の木々の葉が美しく色づく季節となってまいりました。皆様には、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、4月に続き、松川コミュニティセンター様のご好意により、松川地区の皆様を始め多くの皆様から、本学の学生のために、御寄付や1.7トンを超える多くの食品、ならびに日用品の支援を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

学生1人1人にお米約2kg、食料品や日用品を袋詰めしたセットを配布することができました。お米は各所から新米や地域の特産米を頂戴し、学生にとってはさぞかし美味しいごちそうになることと思います。また、地域の皆様や教職員からの御寄付と、日本学生支援機構「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」からいただいた支援金により、1人あたり2,000円分の商品券も配ることができました。

地域の皆様や教職員が思い思いに持ち寄ってくださった物資や御寄付は、松川コミュニティセンターの職員の方々が連日受け取ってくださいました。県外から物資を送ってくださった方や、何度も物資を購入して運んでくださった方もいらっしゃるかと伺っております。また、仕分け作業には同窓会「さわらび会」の方々が駆け付けてくださり、学生ボランティアと一緒に心を込めて袋詰めをしてくださいました。たくさんの方々の御協力があったからこそ、こうして学生たちに支援を行うことができたこと、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行は一先ず落ち着いたかに見えますが、長期間の流行に伴う経済的なダメージは続いており、本学の学生たちの中には家計の負担を抑えるべくアルバイトを増やす学生や、仕送りが減ったため食費を削ってしのいでいる学生もいると聞いております。今回のような御支援が、学生たちの経済的な支えとなると同時に、身近な地域の方々が支えてくださっているという精神的な支えにもなっていると思っております。

皆様から支えていただいた感謝を胸に、地域の役に立ちたいと活動している学生たちもおります。地域のお祭りでのボランティアや、少年非行防止の活動、減塩事業などに既に参加している学生もおり、コロナの感染状況を見ながらにはなりますが、更に恩返しの輪を広げていきたいと考えております。

多くの御支援を賜り、本当にありがとうございました。また、今後とも本学の学生をよろしくお見守りいただきますようお願いし、私からのお礼のご挨拶と致します。

令和3年11月吉日

山形県公立大学法人 理事長

山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学 学長  
阿部 宏慈